



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

92.9.25 No. 3664

8年間に運転士3人が殉職

成田線死亡事故

東日本 責任逃れ許すな

九月一四日、成田線で発生した電車運転士殉職の踏切事故について、一ダンブカーが悪いのだから仕方がない、一対策を立てようがない、一という論が横行していることを、われわれは、徹底的に糾弾する。

運転士の『死』に

何の痛みも

感じないJR東日本

最大の問題点は、一電車運転士が死んだ一ことに、会社当局が何の痛みも感じないで、一事故原因はダンブカーの無謀運転にある一として、真の事故原因を隠蔽し、自らの責任を頼かむりしようとしていることである。

とんでもないことである。千葉管内においては、この間、実に、八年間に三名の電車運転士が殉職しているのだ。

社員や乗客に多数の死傷者を出しながら、何の責任もないかのような態度をとり続ける会社の姿勢が、一次の事故一真の原因であることを、われわれは、厳しく見据えなければならぬ。

東中野事故の真の

原因と責任を

かき続けたJR東日本

JR東日本は、四年前の東中野事故の際、われわれの追及に対し、一警察の取調べ中である一と一切口をつぐみ続け、一取調べの結果運転士の責任であること

がはつきりした一として、一会社の責任はマスコミにたたかれただけで充分だ一と開き直った。

そして、真の事故原因である一赤信号でも突っ走れ一と全運転士に強制したことに對する職場の怒りをチョロまかし、会社の責任を隠蔽するために、御用組合・JR東労組を先兵に、一世界鉄道安全会議一という御祭り騒ぎをデッチ上げたのである。

この真の事故原因と責任をごまかし通そうとしてきたJR東日本の姿勢のなかで、今回も運転士が殺されたのだ。

ダンブ街道！危険踏

切に何の対策も

らなかつたJR東日本

今回事故の当該踏切が「ダンブ街道」と化し、スリパチ状の地形からしても、一いつ事故が起ころうとも不思議でない一状況になつていて、知らぬ間に何の対策もとらなかつたJR東日本という会社に対して、当該千葉運転区をはじめ、全職場が怒り、不安を持つことは当然である。このような危険を調査・把握し、踏切の立体交差化であろうが何であらうが、一運転士が理不尽に殺されたい対策一を構ずることは、会社の当然の責任である。それをやらなかつたことが今回事故の本当の原因であり、ダンブカーの無謀運転は単なるきっかけに過ぎない。無謀運転をわれわれは、ダンブカーの無謀運転の責任を追及することを否定するものではなない。しかし、いわば枝葉の問題に過ぎないことを追及して本当の原因から目をそらすてはならない。

命を守る

ために必要な

金を使え！

「黒字」を宣伝し、労務対策のための庁舎の改造や、まだ充分に使える机や椅子などの備品や消耗品を廃棄して新しく買い込んだり、社長室や支社長室のジュウタンを厚くしたり、一世界鉄道安全会議一にばく大な金を一湯水のようになら使用したりしても、運転士や乗客が死ぬかもしれない踏切の立体交差化一つやる気がないのがJR東日本と御用組合・JR東労組だということが、今回事故で、鋭く突きつけられている。

「一日づれていたら俺

が死んだ」・非心痛な

運転士の声を聞け

同時にそれは、われわれの闘いの不十分性をも突きつけている。われわれは、この事故が、一日づれていたら俺が死んでいたらという運転士の不安を解消する闘いを貫徹する決意をうち固めなければならぬ。組合対策を前面に、客室や駅の柱の陰に隠れて乗務員のアラさがしをやり、些細なことでも責任を追及しボーナスカットや昇給カットを押しつけている区長や助役そして支社・指導センター職制や御用組合幹部が、一ダンブカーが悪いんだから仕方がない一と開き直っていることを徹底的に糾弾しよう。そして、御用組合・JR東労組の解体・一掃なしに、このような悲惨な事故を絶対に全うしてはならないのだ。これを全うする国鉄・JR労働者に明らかにして、一動力車職場は動労千葉・動労総連合に結集せよ！一のスローガンを高く掲げて、組織強化・拡大をかちとろう。